

9 月 1 9 日（火）6 ・ 7 校時に 2 学年の学術研究 S A B 課題研究の第 2 回中間発表会がありました。どの班も第 1 回中間発表から研究を発展させ、より実のある発表会となりました。各ゼミの報告をまとめます。1 年生はこれから科目を選ぶ際の参考にして下さい。

●化学ゼミ

発表時間 約 10 分(質疑応答 4 分)

発表形態 スライド発表(PowerPoint 使用)

- ・生徒からの質問がよく出ており、皆が発表を真剣に聞いていた。
- ・質問の中にはテーマや仮設に踏み込んだ鋭い質問もいくつかあった。
- ・スライドは文字ばかりのものが多く、少し分りづらかった。
- ・どの班も東京研修で学んだことを活かし、前回の中間発表①よりも発展した発表内容となっていた。



●生物ゼミ

発表時間 ～10 分(質疑応答 ～5 分)

発表形態 PowerPoint

実験方法や観察方法につっこみどころがどの班も多くあり、細部までしっかりと考え直す必要があった。また、班のメンバーの一人がほとんど話していて、班内で研究に対する共通理解が薄いところもあったようで残念に思う。しかし、みんな声が大きく聞き取りやすいし、原稿ばかり見ていた人は少なかったのよかった。スライドも見やすいものが多かった。積極的に質問する人もいて、先生からもたくさんアドバイスを頂いたので、どの班もいい刺激になったと思う。今回の発表で明らかになった問題点をもう一度考え直し、次の発表までにすべての班が研究をさらに改良させ、お互いに理解を深め合えたらいい。

●物理ゼミ

発表時間 (質疑応答 5 分)

発表形態 レジュメをスクリーンに投影

中間発表①の時よりも、各班の研究がより興味深いものになっていた。校外研修を経験し、専門家の意見、助言をいただくことで、研究を進めていく視点、角度に変化があったのか、研究のテーマから変えるという班も見られた。どの班も自力では考えつかないような実験方法を論じていた。きっと、東京で得てきたものは大きいのだろうと感じた。質問への受け答えも上手になっていた。前は答えにくい質問が来た時、回答者が硬直してしまう姿が見られたが、今回の発表では、答えにくい質問などが来ても止まることなく、分からないなら「分からない」と答えていた。先生からは、発表は上手になっているが、「文で伝える能力」が足りないというお言葉をいただいた。また、白黒印刷でも伝わる図や写真を添付することが大切だとも教わった。今回聴いた他のグループの発表の刺激を糧にして、より研究を深めていきたい。

●地学ゼミ ※災害研究ゼミと合同発表会

発表時間 0 ～5 分(質疑時間 0 ～1 0 分)

発表形態 PowerPoint などレポートを用いての発表

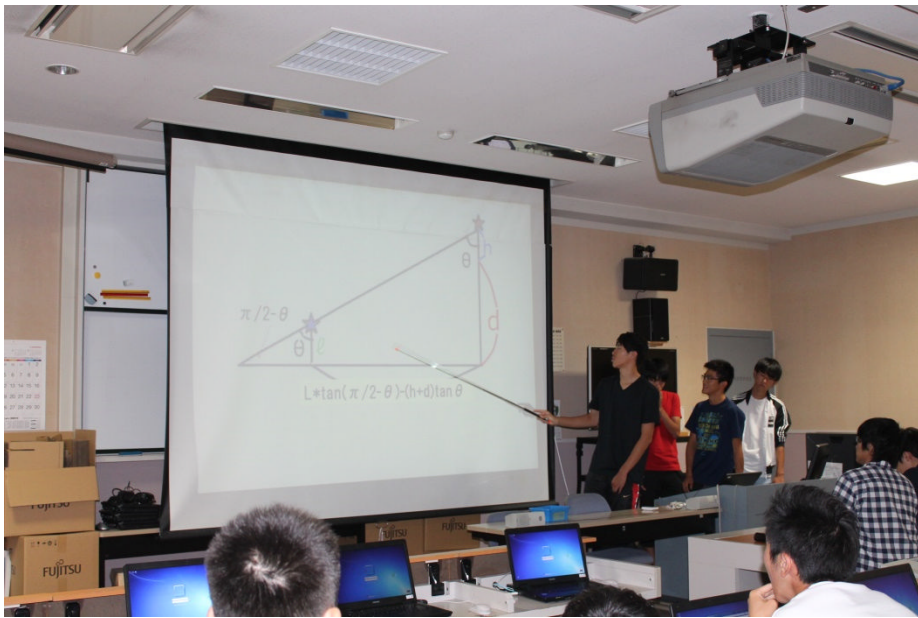
今回は、実験の結果を発表する班が多かった。結果をただ並べるだけで、見る側にはよくわからないという状況になることがあった。また、定義が不確定で、〇〇cm と書かれていても、どこが基準なのかという指摘をうけた班もあった。やはり、まだデータ処理は苦手な印象を受けた。生徒の質問と先生の講評・アドバイスで、時間がおしてしまうこともあったが、その分、先生方から熱心にアドバイスをいただくことができた。

●情報ゼミ

発表時間 10 分～15 分(質疑応答 約5 分)

発表形態 PowerPoint

情報ゼミではパワーポイントを使ったプレゼンテーションの形で発表を行いました。内容が各々異なっているため少し理解に苦しみ、質疑応答が活発に行われませんでした。またwebを使った研究を進めている班はセキュリティの問題や、異なる言語でプログラミングしていることで情報を共有できないなどの問題が発生しているため、研究が進んでいない班が存在している現状です。どの班もプログラミングにてこずっているので、課題としてはプログラミングを完成させることだと思われます。大体の班が高校時代で完結できるような内容ではないため各々が時間の限り最善を尽くして、より研究が有意義なものになることを切に願っています。



●災害研究ゼミ ※地学ゼミと合同発表会

発表時間 5 分 (質疑応答 10 分間)

発表形態 PowerPoint Word

全体の特徴として実験はしているが、それが次につながるのかわからないものが多かった。また、実験はしたものの現実世界で考えると難しくなるものが多かった。また質疑応答では活発な意見交換が行われた。発表内容に関するものでは、5 回の実験による 0.01 の差は差があるのではなく、ほぼ変わらないのと同意義であるや、基準がどこであるのかを明確にする、はかりが示すきわめて小さい値は意味があるのかという意見や、全体への疑問として、「正確な値とはなんなのか。実験して出た値は、実験で出た値であることは確かであるため何が正確、不正確かの基準となるのかわからない。」というご指摘をいただいた。この後の研究では値を正確にしていきたい。

●数学ゼミ

発表時間 5 ～1 0 分 (質問時間 3 ～5 分)

発表形態 PowerPoint を使った発表

前回と同様、数学ゼミはパワーポイントを使った発表だった。すでに解法が求められていたなどの理由でテーマが変わった班もあったが、それぞれに研究が進んでいるように感じた。しかし、今回は質問があまり出ず、深い討論はできなかった。

●公民ゼミ

発表時間 10～15 分 (質疑応答 5～10 分)

発表形態 PowerPoint

夏休みをはさみ、さらに内容の濃い発表になっていた。特に、アンケートの結果を反映していた班が多くあった。

また、独自の観点で新しい意見を出したり、具体的なデータを用いて客観的に考察をしたりということも行われていた。発表後、質問も活発になされ、ゼミ担当の先生からは各班の発表に「結果から派生して考えられることについても深く入りこんでいけたら良い」などとアドバイスを頂いた。

●**地歴ゼミ**

発表時間 5～6 分(質疑応答 1～2 分)

発表形態 PowerPoint

全グループ通して言えることは、まだ詰め切れてないところが多くあったことです。特に定義や目的が曖昧になっていたので、中間発表とはいえ、もう少し準備が必要だと感じました。全体を通して緊張した雰囲気であり、ゼミ発表への緊張感が感じられました。質疑については、発表者が伝えきれていない部分への質問が多く見受けられました。しかし表面的な質問ばかりで、研究の本質をつくような質問が少ないように思いました。ゼミ担当者からの講評・アドバイスでは研究以前に、日本語の乱れについて指摘されていました。言葉1つとっても、「水の量」とは水の体積なのかなど聞かれて、そういう定義づけをすべきといわれました。また、相手が分かっているだろうという認識は捨て、すべての人に分かる工夫が必要とも指摘されました。しかしどの班も改善点を見つけていて、東京研修を受けて意識が変わったのではないかと思った。

●**国語ゼミ**

発表時間 4～6 分（質問時間と合わせて 10 分）

発表形態 中間レポートをレジュメとして用いての口頭発表

前回と比べて、すべての班の発表内容に発展がみられた。多くの班は、校外研修で得た情報や、アンケート調査の結果などを考察の根拠としていて考察に説得力を感じたが、こじつけに近い考察をしていて、根拠の弱さを感じさせられる班もあった。発表態度については、前回のようにただ原稿を読み上げているという班は少ないように感じた。レポートの内容を補足しながら発表していたため、聞き手にとって理解しやすいものであった。しかし、質問が少なく、活発な意見交換は見られなかった。先生からは、自分の思うような結論を出すためにこじつけのような考察をするのではなく、思うような結果が出なかった場合も、結果から考えられることを素直に考察するべきである、というアドバイスや、レポートに具体的な調査結果を載せるべきだという意見をいただいたので、今後改善していきたい。

●**家庭ゼミ ※音楽ゼミと合同発表会**

発表時間 6 分～7 分(質疑応答 3～5 分)

発表形態 レジュメ

家庭ゼミ内の雰囲気は緊張感ある雰囲気だった。ただ、緊張しているというわけではなく、発表などはリラックスして行う事が出来ていた。

前回の中間発表①の際よりも全体的に、発表者に対する質問が多かった点は良かったと思う。ただ、まだ、質問の数や、研究に対し深く切り込んだ質問が少なかったように思える。次回の発表の際には更に、質問の数が増え、内容の質が上がると良いと思う。

発表内容については、前回の発表よりも、進歩していたように思える。しかし、研究に対し、その研究、調査が本当に必要なものなのかという質問があり、研究している内容に対し、向き合い、意義のある研究なのかそうでないのかを考える必要があると感じた。

ゼミ担当者からは、研究内容が、一年かけて行う研究にしては、内容が薄すぎるのではないかとのご指摘を受けた。また、研究を進めていく中で、初期の段階よりも視野が狭くなってしまっていないか。というご指摘も受けた。一度、研究の初期段階に、立ち返り、自分たちは何を知りたいのか。自分たちは、知りたいと思ったことに対し何をするべきなのか。そして、それは意義のあるものとなっているのか。などということを、を考える必要がある。

今回の発表では、多くの指摘を頂き、研究への課題が多く見つかったため、次の発表までに、できるだけその課題を解決していき、より研究内容を深めていけるといいと思う。



●**音楽ゼミ ※家庭ゼミと合同発表会**

発表時間 6 分～7 分（質疑応答 3 分～5 分）

発表形態 レジュメ

質疑応答も活発に行われ、音楽・家庭ゼミが合同で発表会を行っているからこそその指摘が見られた。両ゼミともに、先生からは研究の着地点が不明瞭であるとのこと指摘をいただいた。これを受けて、レポートに研究の展開を反映させるだけでなく、もう一度班員同士でそもそもの研究の趣旨や目的を見つめ直すことが必要であるとの認識が高まったように思われる。また、音楽、家庭ゼミではその他のゼミに比べ学術的、論理的に研究を進めていくことが難しいと感じている班は少なくないが、文献調査やアンケート調査の結果、先行研究を有効に活用し研究に説得力を持たせるための努力、手間がさらに求められることを痛感した班は多いようだ。一年という決して短くはない研究期間のなかで、どれほどの成果を残せるか、各々の研究に対する意識を引き締める発表会となったように感じられる。

●**英語ゼミ**

発表時間 6～8 分(質疑応答 2～3 分/質問は 3 つまで)

発表形態 PowerPoint

今回の中間発表②は、どの班も東京研修前と比べて内容が濃く深くなっていたように感じる。テーマについても、絞りきれていなかったスポットが狭まってきている。研修や夏季休業を経て研究に対する理解が深まったのか、多少難しいように思えた質問にも迷うことなく的確に解答できていた。しかし、大学や企業で新たな知識を得て研究がふくらむと同時に、発表をうまくまとめるのが難しくなっているようだ。したがって、スライドを簡潔にわかりやすくまとめること、発表時間内に聞き手に内容をわかりやすく伝えることが今回の改善点となるだろう。発表を受けて、先生方からは、「スライドに加えたほうが良い情報」や「序論の充実」等、発表に対する指摘のほか、12 月の発表へ向けて、「研究内容の落としどころが重要である」とアドバイスをいただいた。12 月に行われる英語での発表へ向けて、更に研究と翻訳に力を入れていかねばならない。

●**保体ゼミ**

発表時間 8 ～1 0 分(質疑応答 2 ～5 分)

発表形態 PowerPoint

今回の発表会ではどの班も、前回よりも内容の濃いものとなっていた。東京研修で学んだことを生かして、実験やアンケートを行っていてよかったと思う。ただ、保体ゼミの研究ではどうしても被験者が必要になってしまうので、実験の行えていない班が 1 つあったのは残念だった。また、高校生らしいことをテーマにすることで興味の湧く内容となっていた。その中で、扁平足をテーマにした班があり興味をそそられた。どの班の発表にも、みんな積極的に質問をして、ゼミ自体の向上がなされていたのもよかった。私たち保体ゼミは、ほとんどの人が運動部に所属しているため、運動能力の向上を目指している。SSH という環境を利用して、それぞれが試合で活躍できるように努力しているということが、保体ゼミの良い所だろう。



【**編集後記**】

どの班でも前回の発表から発展がみられたようで、とても良い傾向にあると感じた。また、他のグループの発表を聞くことは、自分たちの研究を進める上でよい刺激になると思う。これから 7 2 回生も課題研究に参加してくるので、先輩の名に恥じぬ活動を見せたいところである。